

令和 6 年度第 1 回 恵那市行財政改革審議会 会議録

日時：令和 6 年 7 月 5 日（金） 午後 2 時～

場所：恵那市役所西庁舎 3 階災害対策室 A・B

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 市長あいさつ

4. 諮問（行財政改革大綱の策定）

資料 NO.1

5. 恵那市の現状等について

資料 NO.2

6. 議 事

（1）第 5 次行財政改革大綱及び行動計画策定方針について 資料 NO.3・4

（2）公共施設個別施設計画の改定について 資料 NO.5・6

（3）会議の公開及び公表 資料 NO.7

7. その他

8. 閉会のあいさつ

1. 開 会

■事務局（進行） 本日はパソコンを使用しての会議を実施する。市庁舎内部では、部長以上の経営会議で既にペーパーレスをしているが、一般の方へは初めての試みとなる。今後のデジタル化、ペーパーレス化を意識し、行財政改革の一環として先行して試みる。資料はノートパソコンに保存してあるので、基本的にはそちらを見ていただき、小さいタブレットは予備として検索などで使っていただきたい。操作等で何か問題があれば手を挙げていただければ職員が対応する。

@2 : 57

定刻なので開会する。本日進行の企画課長の和田です。西谷委員、伊藤委員は所用のため欠席。本部長の大塩副市長は体調不良のため急遽欠席で、代わりに、副本部長の岡田教育長が代役を務める。

出席者は10名のうち8名なので、恵那市行財政改革審議会条例第5条の規定により、会議が成立していることを報告する。また、要綱により会議は原則公開とする。本日の審議会は1時間半を予定する。

2. 会長あいさつ

■会長 恵那市は今、全国から注目されていると思う。人口3～5万人の住みたい田舎ランキングで全国1位。来たい町の一つとして注目されている。一方、総務省が出した消滅可能性都市として、東濃5市で恵那市、瑞浪市が入っている。将来人口が減るだろうということと、住みたい田舎1位、この2つをどう考えていくか。これが大きな課題になる。私はえなえーるにもかかわっている。恵那未来キャンパスというのがバローにある。高校生が勉強したりして、そこが恵那市のリスクリングの拠点になっていくと思う。地方創生のキーワードは、今いる市民のリスクリングと、テレワークの拠点としてそこに住んで収入を得られる道。自分の強みを生かせることをテレワークの中で見つけて、環境の良い所に住みつつ収入を得られるということが、「住みたい田舎」が「消滅」を否定する解決策の一つになる。人手不足とスキルの高い技術者が足りないという2つの問題では、外国人をうまく取り込み働きやすい環境を作るといことも喫緊の課題になると思う。

そういうことも話題になると思う。忌憚のない意見をいただきたい。

@7 : 40

3. 市長あいさつ

■市長 本日は大変暑い中ありがとうございます。今日はスタッフの発案で僕らは同じラリージャパンの服を着ている。黒い服を着ている人の方が名人だと思う。エンジ色の服を着ているのはまだ初心者だと思って見てほしい。

行財政改革の話は、家庭に置き換えると分かりやすい。うちは妻と2人で暮らしている。いつか使おうと思って置いてあるものが、いつの間にか何のために置いてあるのか分からなくなっている。本当に要るのかどうか見ていかないといけない。片付ければ使える場所ができる。そういう目線が必要。

また、テレビや有料チャンネルを契約していると、見ないのに毎月払っている。見えないコストが結構かかっている。市役所では税金を預かりサービスに使っているが、客観的に見たり外部から見ると、もっとうまくできることが恐らくある。そういうところも議論いただきたい。今は、パソコンを使うとうまくできるとか、無料のサービスがあるとか、そういうアドバイスもいただきたい。それから、サービスでは、挨拶を大きい声ですれば雰囲気が変わるとか、お金を掛けなくてもできないことがある。いろいろな目線で見てほしい。

一つ嬉しかったことがある。昨日恵那の県事務所に行ったら、所長が、恵那市の財政状況を見て、思っていたより健全だと言ってくれた。これならある程度投資できる余力があると評価いただいた。大きく見ることと小さく各分野を見ることと両方が必要だ。

4. 諮問（行財政改革大綱の策定）

資料 NO.1

■事務局（進行） 委員は第4次行財政改革の進行のチェックをしていただくことを昨年度やってもらった。今年度は、それと併せて、第5次行財政改革の策定を担っていただく。市長から会長に諮問を行う。

@13:15

〔 市長から会長に諮問書の通り諮問 〕

@14:45

■事務局（進行） 市長は他の公務があるので退席する。

5. 恵那市の現状等について

資料 NO.2

@15:35

〔 事務局から資料及び映像に基づき説明 〕

@25 : 39

■事務局（進行） 行財政改革と併せて総合計画も新しい計画策定に入っている。それで使った資料を用いた。後ほどゆっくり見ていただき参考にしてほしい。

6. 議事

（１）第５次行財政改革大綱及び行動計画策定方針について 資料 NO.3・4

（２）公共施設個別施設計画の改定について 資料 NO.5・6

■議長（会長） 今の説明で全国と恵那市の概況がつかめたと思う。

議題（１）（２）について事務局から説明いただく。

@27 : 25

〔事務局から資料に基づき説明〕

@54 : 50

■議長（会長） これから委員の意見を賜りながら詰めていく。今日はこれから、委員一人一人から質問や意見を伺う。

■委員 テーマがないと意見が言いにくい。

D X化について。行政の取り組むD Xということか。

■議長（会長） はい。行政が取り組むものだ。

■委員 町内どこからでもアクセスできる体制で進められると思うが、セキュリティがなかなか難しいと思う。その辺について聞きたい。

■議長（会長） 推進方針 2、スマート自治体への転換のところ、D Xを活用した市民サービスの向上。昨日も角川ドワンゴがブラックスーツに脅されてということがあった。どこが標的になるか分からない。運が悪ければ恵那市になる。セキュリティについて市の見解があれば。

■まちづくり企画部長 後日回答させていただく。

■議長（会長） 防御も方法が多様にあり、かなりお金がかかると思う。

■委員 行政のD Xが進んでいる。本日のパソコンを使った会議は非常にいい。いつかなると思っていた。非常に見やすい。特に、年齢が上がると目が見えなくなるので、紙にはプレッシャーがある。そう見ると、こういうものを市のサービスの中で展開していけば、高齢者には難しいことがたくさんあっても、高齢者の質も変わってくると思う。慣れてない人がだんだんいなくなり、慣れた人たちが増えてくる。そうするとD Xがもっと進化して使いやすくなる。恵那市の 2045 に向けての策定は、若い人たちの視点で、いかにD Xで分かりやすい行革にするか。そういう環境で育ってきた人たちに作っていただければ、我々も少しは慣れていく。時代が変わってくると思う。新しいことを取り入れていただくとい

いと思う。

市民目線では、スマホなどいろいろなものを活用している。うちの80歳過ぎた両親が、スマホでテレビ電話やデータ送信を使ったり、カメラを使って友だちとコミュニケーションを取っている。慣れればそうなる。みんなができる時代になるので、それを念頭に行政サービスを展開できる時代になるので、それを見据えてDXを進めていくといい。

■議長（会長） 一方で、高齢者がスマホで詐欺に引っかかるリスクもある。メディアリテラシーの推進も市が働き掛ける必要がある。

■委員 この会議では若い方だと思うので、子育て世代の意見を言う。

施設の統廃合と、行政サービスを集中させるスマートシティが、人口減少する恵那市で進んでいった方がいいとも思うが、痛みが伴う。子育て世代では恵那市の施策は非常に評判が悪い。何かピン트가ずれていると言われている。どうしてそうなるのかという意見を聞く。恵南は旧町村で個別に決めている部分が多いので市役所もやりにくいのかかもしれないが、ある程度見通しの候補をしっかりともらいたい。ここに集中するというのも、ある程度市民にしっかりと告知してほしい。例えば行政サービスが手厚いだろう地区に移住したのに、そこがそうでなくなったりして、移住してきた人からも不満がある。どこに集中させるのかという計画をそろそろしっかりとしてくれないと、市民も動けない。それが打ち出されている近隣の市に移住していく人が多い。家が建てられないので隣の町に行ってしまう。恵南では特に多い。去年の出生数で明確にそれが出たと思う。行政の力で解決してほしい。見通し、統廃合についても聞いてなかったという声が多い。しっかりと告知して理解を求めていかないと険しい道になる。

@1:06:45

■事務局（企画課長） スマートコンパクトシティの件と、先を見据えて告知するという件。情報提供はしっかりとしていく。コンパクトシティの具体的計画も必要だが、新しい総合計画で、市制20周年を迎え、個別の分野の計画も同じスパンで来ているので、そういった計画を作る中で皆様の情報提供をしながら、分かりやすい計画を作っていきたい。

■議長（会長） 委員の言われるのは、小学校の統廃合など、教育施設の話か。

■委員 恵南地区の中学校統合は、若い世代は受け入れている。ただ、サイレントマジョリティが発言しにくい。なくなってしまったら、市のやり方が、と思う面がある。そういうことが今後繰り返されないように、市の方針があるならしっかりと伝えてほしい。市民は恵那に愛情があるのでそのように行動する。噂や疑心暗鬼が生じている面がある。スマートシティ化を進めると打ち出しているなら、どこに集めるとかそういうことを具体的に知らせてほしい。うちは事業所なので、それが分らないと支店も建てられない。話せば分かるのに話すらされていないとみんな思い込んでいる。

■委員 町なかに住んでいるのであまり多く言えないが。例えば統廃合なら、統廃合して

学校に通えないところがあると思うので、そこはD Xで、何曜日は公民館でパソコンで授業するとか。体育なら市の体育館に集まってやるとか。方法があると思う。そういう方法を同時に打ち出して、統廃合してもいい。小学生はタブレットを持っている。ただ、それを使えているか分からない。学校のある所まで毎日通うのではなく、やり方を根本的に変えないと、人口が減っても住む範囲が狭まるわけではないので、方法を先に出せば、統廃合のやり方も認めざるを得ないと思う。

■議長（会長） ソフトでどう補完するかというのも同時に考える必要がある。

■委員 3点申し上げる。

日本の社会経済動向に絡めて恵那市はどうかという資料の提示があった。その中で、定年後のシニア世代、自己実現、社会貢献の意識が高まっているということ。さらに、恵那市では人口構成が、65歳から74歳が多いということ。これはチャンスというか、この年代の人たちの意識の受け皿、例えば学び直し、教育プログラムの提供だったり、ここに行けば第二の人生の第一歩が踏み出せるといったものが提供できるといいと思う。

2点目。バスについて。まちなか巡回バスは有効だと思うが、もっと広域に、縦横無尽に、自動運転のバスで、そこに行けば簡単に乗れるというバスが走っていたらいい。個々で駅や学校に送迎するのが当たり前になっているが、それが解消できると変わると思う。私も子どもを送迎すると、同じような車がどんどん駅に入っていく。解消できる方法があるのではないかと思う。それが理想だ。

3点目。幼児教育の充実。地元の教員が圧倒的に少ないので、そこは重点的に対策を強化して行ってほしい。幼児教育では、子どもが少ないので、個別対応ができる。預かり保育ではなく、保護者と一緒にこの子を育てるという強い意志を持って臨めば、「恵那市はすごい」と広まると思う。

■議長（会長） えなえーるで単発でいろいろな企画をして、親子が一緒に学べる機会を作っている。まだいろいろなことができる。

■事務局（企画課長） リスキリングは未来キャンパスでも意識してやっている。充実していきたい。自動運転も、岐阜県主体で、東濃5市と下呂市で、実証実験ベースで新しい取組をしたいと恵那市でも考えている。公共交通は全国の課題で、自動運転ができれば課題がかなり解決する。過疎化などにも対応できると思う。

■教育委員会事務局長 幼児教育は、恵那市内のニーズとしては、まだまだ教育ではなく預かりが強い。長く多く預かってほしいということ。預かりだけではということは理解している。預かりと教育の質のバランスを取りながら、より質を高めていくことが大事だと思っている。こども園でどういう子を育てるか明確にし、それを小学校に繋げていく施策が必要。行革というより総合計画の話になるかもしれないが、そう考えている。

■委員 今日のペーパーレスの準備は大変だったと思う。新しい形が見えた。あと、気を

遣っていただいたのか、タブレットを開いたとき、検索をグーグルではなくヤフーにしていた。

セキュリティについて。セキュリティは厳しい。実行者は軍隊であり組織的犯罪者であり日本人ではないということが大きい。狙われたらひとたまりもない。特に自治体は構造上、いくら頑張っても、弱い自治体から侵入されたら一気に全部やられる。ここは総務省も考えている。ただ、家のお金に例えると、部屋に置いておいた1、2万円が持っていかれるのと、クレジットカードやキャッシュカードが持っていかれるのとでは影響が違う。市の情報も、セキュリティリスクはゼロにはならないので、何かあったときどれくらい影響があるのかという形で、冷静に何が起きているのか捉えたと、慌てずに対応をしていただける。リスクはなくならないし、影響は軽微、重度と分けることができるので、そこは恵那市がしっかりやっていると思う。

行財政改革では、恵那市はインフラを昨年度徹底的に整備した。今恵那市の職員は庁舎内ならどこでも自分の必要な情報が取り出せるし、スマートフォンという目と耳という武器を持ったので、これからICT化を進めるとき、いちいち自分の席に戻らなくてもいろいろなことができる。市民がこうしてほしいという声を上げれば、職員がどうするかをその上で考えることができる。ほかの市はインフラから考えないといけないので非常に時間がかかるが、恵那市はやりやすい環境にある。

ただ、DXを進めるとき、何のためにやるのかが一番大事。うちの会社では、デジタル化により人と話す時間を増やすために行なっている。営業なら、お客さんと話す時間。今日のような資料も、資料を作るための情報集めは作業でしかない。それを基にどうするか考えるのが人間の仕事。作業は徹底的にデジタルで時間を短くして、市民のことを考える時間を増やすことが良い。人の知恵を使うためにDX化を進めてほしい。市民は市役所に行かなきゃいけないという「～なきゃいけない」を取り除くために進めてほしい。

建物。造るとメンテナンスの人が必要になる。鍵の開け閉め、清掃。維持するなら、そこをどう極小化して、作業を減らしてメンテナンスを維持するか。全部やっていると職員が忙しくなりすぎる。2040年問題、職員が減ることについて考えないといけない。

■議長（会長） 恵那市のホームページには誰でもアクセスできないといけない。一方で、個人情報など外に漏らせない情報にはセキュリティを高めないといけない。両方見ないといけない。

■委員 我が社の内部のシステムはソフトバンクの協力で取り組んでいる。GWSというグーグルワークスペースを全社に導入し、社内の会話は全部チャットで済ませている。いちいち宛名など調べなくてもすぐできる。店頭ではペーパーレス化を進めて、伝票を撤去している。個人のお客様にはタブレットで出金、税金を全部それでやるように変えた。恵那市でもできるかもしれない。

第 5 次行財政改革大綱。歳入の確保で、ふるさと納税の推進。年々増加していると聞か
が、企業版ふるさと納税などの活用を今後するといひ。広告収入の拡大。ネーミングライ
ツを検討していると思う。市の予算、余剰資金の運用が、預金以外で何かやっているのか、
規制があるのか、知りたい。

@1 : 28 : 57

■事務局（企画課長） ふるさと納税。令和 5 年度は 2 億 3 千 2 百万円。右肩上がりにな
っている。ただ、東濃 5 市では一番低い。中津川市は約 10 億円。ふるさと納税本来の趣旨
である恵那市を応援するということを大事にしつつ寄付金額を増やす取組をもっと進める。
併せて、企業版ふるさと納税も、事業を示してそれに賛同してくれる企業と一緒に取り組
む。特に大きいプロジェクト事業は、企業版ふるさと納税を活用していくように検討する。

ネーミングライツも昨年度受入れの体制を整備した。市としても、示せる施設があれば
示し、企業でもぜひというところがあれば、市の施設に付けていきたい。

■会計管理者 市の基金で運用を行っている。長期的な資金は債券で運用して、短期的資
金は定期預金で運用している。

■議長（会長） 本日頂いた意見を今後の行財政改革に反映する。

（3）会議の公開及び公表

資料 NO.7

■事務局（進行） 本日の会議は年度初めでもあり最初から公開とさせていただいたが、
事前に皆様に諮ってから公開・非公開を決めて議事を進めるが、次回以降についても公開
扱いで進めたい。審議いただきたい。

要綱で、会議は原則公開となっている。内容を見ても、「個人情報を取り扱うなど運営
に支障が生じそうな案件」もないので、扱う場合があれば会長と相談させていただき、公
開・非公開を決定したい。

■議長（会長） 資料 7 の通り、事務局から案が提示されたが、良いか。

〔 発言する者なし 〕

■議長（会長） では、事務局案の通りとする。

進行を事務局に戻す。

7. その他

■事務局（進行） 次回は 10 月 2 日としたい。委員には改めて事務局から案内する。

8. 閉会のあいさつ

■副会長 少し思ったことを述べる。

行財政改革審議会は、私自身としては、今度作る総合計画も併せて見せてほしい。行財政改革は、総合計画の重要施策を打つために、どこを整理してそのお金を捻出するのかというのが大事なところだと思う。そこが分からないと、4年間でできることだけやるという形になってしまう。

それと、僕は岩村の資料館の委員なので、恵南5町村の資料館を見た。人口減少はすごく影響があると思うが、中に入るとすばらしい。大事なもので、みんなに見せれば相当の集客効果があると思うものがあるが、管理する人が誰もいないので、ほとんどほこりをかぶっている。そこに一旦人が入らなくなると物置になり、次々に物を置くだけになってしまう。それで、ターゲットの目標値をちゃんと決め、市民にこうしたいということを、総合計画などでももう少し具体的に言わないとだめだと思う。例えば、恵南の統合は中学校のことで、小学校をどうするかの方性がない。本当はそれを教育委員会が示していくべきだ。飯地町では平成8年に1年生と6年生が0になった。中学校の統合だけの話ではない。小学校をどうするかの問題になっている。「全体にこうしたらどうか」ということが大事だ。

飯地町は名古屋大学の高野先生に人口シミュレーションをしていただき、30年後の2050年に人口が200人になると想定されている。現在の人口が600人。一つは、村をやめて、どこかへ移ることを想定するのか。もう一つは、200から少しずつ増やして300ぐらいまで移住者を増やせば安定するので、300を想定したとき、住み続けるのに何が必要かを考えてインフラ整備をしないとだめだということを考える必要がある。市も、人口減少というが、2045年に恵那市が何人だと思っているのか。そのとき、病院はどれだけ要るのか。ターゲットがないと、みんながそれをいいか悪いかの話ができない。4年間の行財政改革ではなく、ここまできかないとだめだというターゲットを想起するようなストーリーがほしい。

岩村の佐藤一斎の言志晩録の13条に、「一灯を提げて暗夜を行く。暗夜を憂うことなかれ。その一灯をただ頼め」とある。行財政改革の一番大事なその一灯の施策は何かを考えないといけない。

■事務局（進行） 閉会する。

@1:40:40

[閉 会]